

11月号

第382号

# いっしん

平成28年(2016年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

善し悪しは  
神にまかせて  
人はただ  
心すなおに  
格しみて行け  
甘本親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御款



教団墓地(三代金光様・四代金光様方奥津城)にて H28.10.2.

御本部

## 生神金光大神御大祭

参拝

実りの秋を迎えた、十月一日(土)二日(日)に加治木教会の御本部生神金光大神御大祭参拝者一同は、北薩地区・球磨地区の教会の皆さんと一緒に、マイクローバスで参拝のおかげを蒙らせていただき、加治木教会から六名で参拝させていただきました。

大口教会で北薩地区(五教会)の皆さんが乗り込まれ、人吉駅前で球磨地区(多良木教会)の皆さんが乗り込まれ、一路ご霊地へ向かわせていただきました。

この日はお湿りの天気予報だったせいか、高速道路が比較的空いており、予定よりも早くご本部に到着でき、教主金光様のお退けお見送り間に合うことができ、ありがたいことでした。

光風館に泊まらせていただきましたので「夜の教話」「朝の集会」などにもおかげを蒙らせていただくことができました。

また、翌朝三時四十五分の金光様

のお出ましもお迎えすることができ  
ました。

二日の、ご祭典前の教話は熊本県  
伊倉教会長 谷口範雄先生で、二年前  
に百才でお国替えされたお父様との  
親子関係をとおして信心に取り組ま  
れた、尊いお話しでした。

ご祭典は、教主金光様のおぼしめ  
しによりご長男金光浩道先生ご祭主  
のもとに、厳かに麗しくお仕えにな  
られました。

帰途の車中ではマイクが回され、  
全員が御本部参拝の感想を一言ずつ  
話し、共励ができ和やかで賑やかな  
参拝となりました。

《帰途車中感話》



●【中村幸子氏】参拝のおかげを  
蒙らせていただきあ  
りがとうございました。  
夜の教話、朝の  
教話、祭典前の教話

も聴かせていただくことができ、あ  
りがたいことでした。

●【小屋敷康子氏】皆さんと一緒に  
参拝ができありがたいことでした。  
七十才を越えると、体調の良いこと



ばかりではありませ  
んが、今回は久しぶ  
りに、参拝のおかけ  
を蒙らせていただき  
ました。これからも健康のおかげを  
頂いて、できる時には参拝させて  
いただきたいと思います。



●【濱口洋子氏】久しぶりに御本  
部参拝のおかげを蒙  
らせていただきました。  
このところ母の  
介護のために参拝で  
きませんでした。今回は母の願  
いもあり、お繰り合わせを頂いて参拝  
させていただきました。お話を土  
産にしたいと思います。



●【前田和子氏】去年、今年と、  
続けて御本部参拝のお  
かけを蒙らせていた  
きありがとうございます。



●【星原恭子氏】御本部参拝をさ  
せていただきました。  
今回は東京から参拝さ  
せていただきました弟  
とも会うことができ、

ゆっくりとお話ができまして、あり  
がたいことでした。



●【松井教子先生】(聖之城)娘の寿  
子が教師にならせて  
いただき、初めて一緒  
に参列させていただ  
き、ありがたい思いで  
一杯でした。泊りが光風館で、加治  
木教会の先輩の信者さん方と一緒  
させていただき、いろいろとお話し  
をさせていただきました。

「小学校一年生の時、少年少女全国  
大会と一緒に参拝させていただきました  
したね。」と当時の思い出などを一  
緒にお話しさせていただきました。  
たいことでした。



●【松井寿子先生】(聖之城)教師の  
おかけを頂いて初め  
ての御本部参拝で、  
金光教學院在学中  
(五月に卒業)は、

三分でお出ましや参拝ができていま  
したが、今回は八時間かけての参拝  
で、学院在学中の一年間がとてもあ  
りがたいことであつたと感じさせて  
いただきました。

鹿児島地方教会連合会 主催

# 青年のひろば

開催される

霧島山麓  
にハギの花  
咲く九月二  
十四日(土)  
～二十五日  
(日)鹿児島

地方教会連合会主催「青年のひろば」  
が開催されました。



今回の講師は、大分県大鶴教会の  
江田泉先生でした。

江田泉先生を講師にお招きした  
のは、今年四月十四日に発生した「熊  
本地震」に対し、隣県であるにもか  
かわらず義援金を送ることくらいし  
かできていない鹿児島地方連合会  
(加治木教会も含めて)の信奉者一  
同、特に若者に対し『熊本地震復興  
支援活動の現状とこれから私たち  
は何をなすべきか』を語っていただ  
くためでした。

講話や参加者との懇談、すべての  
内容が、鹿児島地方にとっては、望

んでいた以上に貴重な内容・情報・  
知識ばかりでした。



第一日目の、講話では、江田泉先  
生が二十七才のとき阪神大震災が起  
こり、支援物資を運んだときの貴重  
な体験によりお道の教師になること  
を志されたお話しに始まり、お道の  
教師となられてからも、もし大震災  
が起きたときに対応できるようなス  
キルアップ、仲間づくり、心の準備  
を進められる中に東北大地震が起こ  
ったこと、また、東北大地震発生直  
後の本部からの被災地派遣団のメン  
バーに選ばれて活動された支援活動

と、今年の熊本地震の支援活動を通  
して、被災地の実情や、習得された



こと、気を付ける  
べきこと、被災地  
での活動の仕方  
などを細やかに  
丁寧にユーモラ  
スにお話しして  
下さいました。

第二日目は、テ  
ーブルを囲んだ  
懇談形式で、被災  
地での支援活動  
の中で経験され  
た、トラブルや、その解決策、問題  
点や、地域に密着した支援活動団体  
で、その仲間となった人たちと協  
力して共に動くようになった、支援  
活動の内容や、そこで学んだこと、  
出遭うことができた、輝くような若  
者たちとの会話やハプニングなどを  
お話し下さいました。  
最後に、残っていた参加者全員が  
順に、三分ほどのスピーチをして感  
想やこれからやってみたい支援活動  
などを語りました。



金光教鹿児島地方教会連合会主催

「青年のひろは」での講話

平成二十八年九月二十四日・二十五日

講話要旨 前編

《講師》

大分県大鶴教会

江田 泉 先生

《講題》

熊本地震復興支援活動の現状と、

これから私たちは

何をなすべきか！



◆【私と震災支援活動】

二十七才の時、阪神淡路大震災が起こり、大分県の教会連合会で、被災地に支援物資を持って行ったとき、現地のある教会の先生が、土下座しながら何度も「ありがとう」と言われる姿に、涙が勝手にポロポロ流れ「人が助かるお役に立つ」御用ができるのであれば教師にならせてもらってもいいかな」と思い、教師になるきっかけとなりました。

◆【私のスキルアップ】

教師とならせていただいた後、いろんな御用奉仕や土方を経験してス

キルアップを図り、志もあり技術もあるというような人と仲間づくりをし、大震災は起きていないけれども、身の回りの所で困っておられる人がおられる時に、手を差し伸べられるような心の準備も取り組ませていただきました。

◆【本部派遣チームに】

本部の職員にならせていただき御用をさせていただいているときに東日本大震災が起き、願いもして心に抱いていた派遣チームのお役を頂き、金光様の御神米を被災地の全教会に届け現地調査するご命を頂き、現地に向かわせていただきました。

◆【東日本大震災の現地では】

被災した教会は、建物は「大丈夫」であっても中はグチャグチャという教会がかなりありました。

しかし、教会長先生はその実情を仰られないのです。現地の方の「大丈夫」という言葉は信用してはならないことが後になってわかりました。「大丈夫」と言われても「ほんとうのところどうなの？」という気持ち

でいるようにしなければなりません。

◆【被災者の心情を配慮して…】

壊れた教会の写真は「ひどいでしょう、ほら！」というように、私たちもそのような写真を見たいのですが、被災した人たちは見られたくないものなのです。

(※ここで、被災教会、被災地の写真や映像を八分ほどに編集した映像が、プロジェクターでスクリーンに映し出され、この後は写真を投影しながらのお話となる。)



◆【「陰で支える人あつての支援活動」】  
 支援活動というものは、行けないけれども行ける人たちを陰で支えようとする人たち、そういう人たちに支えられながら、限られた人たちが行くことができます。

支援活動に行くときには、行けない人たちの祈り思いを背負って行くことを気付けましょう。

◆【「義援金」と「支援金」の違い】  
 「義援金」というのは、集まったお金がそのままお金として被災地や被災者に届き、途中で物資には変わらないのです。

お金をお金のまま届けるのが大原則で、被災地の方には何よりも喜ばれますが、手順を踏むため届くのが遅くなるのです。

「支援金」は、集めたお金を今必要と言われている物を調べて手助けすることが出来ます。

集めるときも、使うときも、その違いをはっきり知っておかなければ問題となります。



◆【「緊急」「復旧」「復興」】  
 災害発生時には「緊急」「復旧」「復興」という段階があります。今は「復旧」の時代に入っています。

「復旧」と言っても「教会」の「復旧」とは、何でしょうか？

「私たちが何をなすべきか」の中に、「教会」もしくは「地域」などに対して、なすべきことがあります。

それを見定めながら「何ができるか」を考えて行くということが大切です。

私は、ある任意の支援活動の団体の支援をしています。

物資を集めて配るなどの支援活動の団体を立ち上げたいのですが、そこまでの力がありません。

「私にとってはそれがやっと」という支援活動に取り組んでいます。

◆【「私がせねばならないこと」】

故佐藤光敏教務総長が、東日本大震災の復興支援活動が行われていたときに「私にしかできないことも大切なだけけれども、私がせねばならないことというのがあって、そして、私にできること、私にしかできないことは、私にできることであるけれども、私がせねばならないことは、私にできるかどうかからないけれども、せねばならないことなんだ」と、私に独り言のように仰ったことがあり、現在の支援活動の中でもよく考えながら取り組ませていただいています。

◆【祈りをもつての支援活動】

東日本大震災の時に、亡くなられた方々の名簿を入手することができ、印刷して、一人一人、亡くされた家族や残された家族のことを想像しながら祈らせていただいていますとへもう、これ以上見ることができないという思いで泣きながらへもう、私にはムリだ」という気持ちになりました。

その名簿をある先生にお譲りしてから、少し心が楽になったことがありました。

四代金光様の書で「お役に立つことが助かること 助かることがお役に立つこと」とありました。

現在もその内容を体感的に分かろうとしながら活動を進めています。

◆【写真・見た目では見えないもの】

昨日も現地で、ボランティアの方たちに「何も変わっていないと表現するのは、どう思う?」と尋ねますと、ある寡黙な人がいきなり「あれは、腹立ちますよねー、この五か月間、ボランティアや業者さんとか行政の方たちが死に物狂いでいるんな

ことをやってきているのに、たまにきて『何も変わっていませんこの風景』とか言われる、けれども、潰れかけた家の中から大事な物をボランティアさんたちが命をかけて掻き出して、お家の方に手渡すということをやりつつづけている最中で、たまに来た人が『何も変わっていませんね』と表現するのは、あれはやめてほしい」と言っていました。

見た目だけで、現地のことを表現すること、伝えることは気を付けなければなりません。

◆【野上教会のよつす】

今は修復が終わってきています。それで安心しそうですねですが、教会の先生は何も仰りませんけれども、ここから支払いが始まるわけです。

それほどの貯えを持っている教会は、どこもそうないですから、被災されたこの教会も「ここから支払いをどうしようか」という重い課題に取り組まれることが、今から始まることをわきまえておかねばなりません。

◆【別府教会での御用】

これがチェーンブロックです。これで倒れているのを起こしたただけなのですが、こういう墓石を立てるのは業者さんの仕事です。しかし、土方の仕事の経験を生かして、チェーンブロックを使って、夫婦で五基の墓石を立てる御用させていただきました。



大分県 野上教会

(講話要旨・前編おわり)

※つづきは次号です。



感 詠

(教会長)

一見は 不幸に見ゆる ことごと ムダごとされぬ 深きご神慮	先代の 政美師在せば 百歳と 言うまめびと ともに偲びぬ	起こりくる 良きも悪しきも 寸分の ムダなき神の 慈愛と礼び	求めぬは 前に進まん 心意気 志にも 似た思いせり	つらきとき 最善最大 最高の 神慮と信じ いざ貰かん	求めぬば 授かる道は 開けじと 思い直しつ 坂も登りぬ	永遠の 助かり与え たまふため 深き神慮を かけさせ給ふ	求めてぞ おらねば与え られぬこと 伝え給ひし 芸の道人
---	--	--	---------------------------------------	--	---	--	--

ご霊神様のお立日

十一月

小坂道夫之霊神・9日・平成24年  
 中村光志之霊神・12日・平成19年  
 大重為昭之霊神・13日・平成12年  
 吉屋アイ之霊神・14日・昭和56年  
 瀬尾清博之霊神・17日・昭和49年  
 大重愛子之霊神・20日・平成2年  
 中村ハル之霊神・21日・大正7年  
 桐野ハル之霊神・21日・昭和63年  
 金竹ナミ之霊神・24日・平成19年



「先祖のご霊神様の、現世、幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。鹿児島県は、目をあけず墓参りする習慣があり、どのお墓もいつも花を絶やさぬように気を付けてあり大変良いことあります。ご先祖の霊様方も生死を通して天地の恩を恵まれてあることを代わりに御礼申し上げ、大安心のおかけを頂いていただきましょう。

あしあと 加治木教会行事記録

10月  
 1 (主) 御本部(主) 御大祭参拝  
 3 (月) 清掃 御用 10時  
 矢野サタ子白萩大刀自立日  
 4 (火) ●月例祭(報徳) 10時半  
 5 (水) 教区青年フォーラム企画会議  
 6 (木) 安楽家宅祭  
 8 (土) 中村家霊祭  
 9 (日) 斎掃 御用 10時半  
 10 (祝) ●月例祭(主) 御大祭(主) 10時半  
 16 (日) 人吉教会御大祭 11時  
 21 (金) 清掃 御用 10時  
 22 (土) ●月例祭(主) 共励会 13時半  
 23 (日) 出水教会90年記念大祭  
 30 (月) 上荒田教会御大祭 11時  
 31 (月) 清掃 御用 10時



御本部生神金光大神御大祭参拝 往路(宮原SAにて) 10/1

十一月六日(日) 午前十一時

加治木教会 前日 御用奉仕

### 生神金光大神御大祭奉仕

講師 佐賀県相知教会長

佐藤 和貴 先生

※「祭典後、教話、直会。」

十一月十九日(土) 午前十時半より

加治木教会

### 立教記念祭・新穀感謝祭

併せて 月例祭・共励会

※教話後、新米のお直会

十二月三日(土)・四日(日)

甘木親教会

### 生神金光大神御大祭 参拝

御大祭・記念祭・式年祭

【11月】

- 13 (日) 多良木教会 80年記念大祭 11時
- 20 (日) 鹿児島教会 120年記念大祭 11時
- 23 (祝) 宮之城教会 55年記念大祭 11時
- 26 (土) 大口教会御大祭 12時
- 27 (日) 西鹿児島教会御大祭 12時

### 教会行事

11月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (祝) 甘木親教会参拝日 (参拝は未定)
- 5 (土) 御大祭前御用奉仕
- 6 (日) ●加治木教会御大祭 11時
- 9 (水) 斎掃御用 10時
- 10 (木) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 13 (日) 多良木教会 80年記念大祭 11時
- 19 (土) 立教記念祭・新穀感謝祭 10時半
- 併せて月例祭・共励会
- 20 (日) 鹿児島教会 120年記念大祭 11時
- 23 (祝) 宮之城教会 55年記念大祭 11時
- 26 (土) 大口教会御大祭 12時
- 27 (日) 西鹿児島教会御大祭 12時
- 29 (火) 連合会 執行部会 10時半
- 30 (水) 斎掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会

12月

- 1 (木) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) ●甘木親教会御大祭 第一日
- 4 (日) ●甘木親教会御大祭 第二日
- 9 (金) 斎掃御用 10時
- 10 (土) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 11 (日) 御本部布教功労者報徳祭 (参拝は未定)
- 15 (木) 連布教協議会 (教委) 10時半
- 21 (水) 斎掃御用 10時
- 22 (木) ●月例祭・共励会 13時半
- ” ●感謝パーティー 17時より
- 29 (木) 斎掃御用 10時
- 30 (金) ●越年祭 13時半

11/20 (日) ひつとべバンド隊  
鹿児島教会記念祭  
直会にて演奏奉仕

※行徳先生(サクソ)で、崎向先生(トランペット)で参加されます。みんなどおかけいただきますように。

十二月二十二日(木) 十七時より  
少年少女会・信徒会  
歳末感謝パーティー

会費 大人一〇〇〇円・中高生七〇〇円 小人四〇〇円

…の予定です。(今のところ)